

銚子市庁舎等公共施設整備基本構想検討委員会（第1回）議事録

開催概要

- 日時 : 令和8年7月31日（金）16:00～17:15
- 場所 : 銚子市保健福祉センター 2階会議室
- 出欠 :

委員	委員長	柳澤 要
	副委員長	木村 栄宏
	委員	宇澤 園子 野本 春道 岩井 剛 伊東 好雄 岡田 幸太郎 石毛 良美
特別職及び関係課		市長 副市長 教育長 企画課長 財政課長 資産経営課長 総務課長 都市整備課長 社会教育課長
事務局		・資産経営課
運営支援		・パシフィックコンサルタンツ株式会社
傍聴者数		16名

■ 次第

1. 開会
 - (1) 市長あいさつ
 - (2) 委員の紹介
2. 議事
 - (1) 委員長・副委員長の選出
 - (2) 本委員会の目的及び検討事項について
 - ・会議の目的及び趣旨説明
 - ・要綱の確認
 - (3) 庁舎等公共施設整備基本構想の策定について
 - ・公共施設再編の基本方針
 - ・全体スケジュールの共有

資料1

資料2

資料3

(4) 市民意向調査について

- ・市民アンケート調査結果
- ・中高生アンケート調査結果

資料 4

資料 5

3. その他

4. 閉会

■ 配布資料

- ・ 次第
- ・ 資料 1 : 鉾子市庁舎等公共施設整備基本構想検討委員会の組織及び運営に関する要綱
- ・ 資料 2 : 公共施設再編の基本方針
- ・ 資料 3 : 全体スケジュール
- ・ 資料 4 : 市民意向調査結果
- ・ 資料 5 : 中高生アンケート結果
- ・ 参考資料 1 : 市民向けアンケート調査票
- ・ 参考資料 2 : 中高生向けアンケート調査票

決定事項

- ・ 鉾子市庁舎等公共施設整備基本構想検討委員会の組織及び運営に関する要綱第 3 条第 2 項の規定に基づき、柳澤委員を委員長、木村委員を副委員長として決定した。

議事要旨

(1) 委員長・副委員長の選出

■ 事務局より資料 1 の説明

資産経営課長： 鉾子市庁舎等公共施設整備基本構想検討委員会の組織及び運営に関する要綱第 3 条第 2 項の規定に基づき、柳澤委員を委員長、木村委員を副委員長として選出したい。

委員一同： 異議なし。

(2) 本委員会の目的及び検討事項について

① 会議の目的及び趣旨説明

② 要綱の確認

委員一同： 異議なし。

(3) 庁舎等公共施設整備基本構想の策定について

■ 事務局より資料 2、資料 3 の説明

① 公共施設再編の基本方針

(市庁舎の防災性機能向上と他自治体の事例について)

委員長： 現在、鉾子市の公共施設は、施設の老朽化や耐震性の不足等の問題点を抱えている。また、コミュニティーセンターは稼働率が低く、市民ニーズの重複もあることから、施設の集約化や床面

積を適正化により削減する方向性であり、公共施設の再編が急務である。委員の皆様からご意見を頂きたい。

委員：前提及び認識の共有をしたい。委員会名が“市庁舎等”となっているが、公立学校の集約検討は既に取り組んでおり、本検討委員会では、市民文化施設をメインとし、医療や子育て関連施設、公園等は喫緊の課題は無いので検討外という認識で良いか。また、公共施設の災害関連について、ソフト面では危機管理室による対策及び千葉科学大学とも連携している。一方、ハード面では市庁舎の耐震性等が不足した危険な状況であり、行政機能が損なわれる可能性がある。令和 8 年熊本地震の発生もあり、市役所の拠点性確保は最優先課題である。建築資材高騰による財源確保の課題があるが、先を見据えた防災性の観点から、今の市庁舎は問題があることの認識を持って頂きたい。事務局へのお願いとして、他の市町村の庁舎整備の事例について、失敗例も含めて事例収集及び委員会において紹介して頂きたい。

委員長：本市の公共施設再編において防災の視点は重要である。事務局において、庁舎機能及び市全体の公共施設再編を含めた事例収集を行うこと。委員の発言を受けて、事務局からコメントをお願いしたい。

事務局：今回の公共施設再編において、防災の観点が重要であることは認識している。銚子市庁舎は大規模災害時における防災拠点であるが、現状では耐震性が著しく低いので役割を担うことは難しく、最優先課題であると考えている。他自治体の事例を基に市庁舎等の公共施設整備について検討し、次回以降の委員会において事例を参考資料としてお示しする。

副市長：以前から他自治体（木更津市役所、市原市役所等）へ視察しており、次回以降の委員会において参考資料としてご紹介する。視察を通じて他自治体の担当者から良い点と課題をお伺いしているので併せてご紹介する。今後も視察を行っていきたい。

委員長：市原市では、市庁舎整備が先行しており、防災庁舎となる新庁舎の整備後、残りの庁舎の建替えを進めている。市庁舎の再整備において、防災拠点としての機能確保は重要な論点である。防災拠点を市庁舎と一体とするか、リスク分散の為に分庁舎化を検討している。

委員：他自治体の市庁舎整備に関する視察について、ひたちなか市への視察をお願いしたい。また、夕張市は銚子市と似たような財政状況の中、山間部における市庁舎の整備とコンパクトシティ化を考えているようで、夕張市についても調べていただきたい。

（財源確保）

委員：建替費用の確保に向けて、補助金等を含めた現時点での想定を教えてください。

事務局：災害時の対策本部や危機管理室執務室の整備などには、緊急防災・減災事業債がある。公共施設再編については、国土交通省の社会資本整備総合交付金や公共施設等適正管理推進事業債等の交付税措置のある地方債がある。これらの財源を活用しながら施設整備を進めたいと考えている。

副市長：昨年度、ふるさと納税が 70 億円と好調であった。ふるさと納税を活用した寄付として、「がんばれ銚子応援基金」がある。本基金を積み立て、複合施設の頭金として捻出し、併せて交付金を活用したい。

市長：「がんばれ銚子応援基金」を公共施設再編に利用できるよう、条例を改正した。市庁舎等の公共施設再編に向けた頭金を貯める意識で進めている。財源確保の方策については、次回以降の議題としている。

委員長：市庁舎等公共施設再編にあたり、床面積の削減やランニングコストの削減によって整備費用

の削減を実現するのは重要な視点である。コスト削減の一方で、収入アップに向けて、公共施設の運営を一部民営化する等、受益者負担により収入を上げていくことも重要な視点である。銚子市の貸館施設の稼働率が低いのが気になるが、公共サービスの魅力度を高めることで施設の稼働率を高め、市民活動へ還元される、施設整備の成果が実感できるサイクルの創出も重要である。

- 委員： 施設の貸館機能について、市民が貸館を使いたくても用途が制限されている状況がある。それが解消されたらと思う。
- 委員長： 駐車場不足や居場所が無い等の問題があるようだが、公共施設によっては利用されている様子なので、どうすれば改善するかを考える必要がある。
- 副市長： 現状の稼働率等の分析結果から原因を改善し、稼働率を高め、サービスをいかに向上させるかの視点が必要である。現在の稼働率を基に今後の施設規模等を検討する訳ではない。
- 委員： ふるさと納税を施設整備の財源とする発言があったが、施設整備を想定している令和 10 年以降まで確実に財源とすることが確信出来るのだろうか。確固たる財源の下で起債により施設整備するべきではないか。その上で、施設の魅力向上の点で膨らませられる機能面においてふるさと納税による基金を利用する考え方が必要ではないか。
- 市長： ふるさと納税がいつまで継続されるか不明確だが、現時点では銚子市の財源として重要である。ふるさと納税を基金に積み立て、公共サービスに有効に使っていきたい。

（公共施設再編にあたっての既存ストックの活用）

- 委員： 公共施設の機能の再編にあたり、図書館等、既に地域にある資源を含めて検討する必要があるのではないか。
- 委員長： 既存ストックの情報も整理しながら、公共だけでなくリソースをどう取り組むか検討して頂きたい。
- 委員： 勤労コミュニティセンターの 2 階は、省スペースではあるが会議等で利用されている。普段、市民センターに関わっているが、貸館機能があることが知られていない。再編に向けて、周知や議論することが重要だと感じている。
- 委員長： 公共施設再編にあたり、学校施設等では教育以外に利用されたくない管理者の意向があるかもしれないが、週末などに地域住民が学校施設を利用していく運用面での工夫もある。ポテンシャルのある施設を上手く利用しながら、必要機能を絞り、共有化を図ることも必要な視点である。
- 委員： 来年度意向、東部地区の 4 校の中学校が統廃合される。廃校となる校舎はどうするのか。グラウンドは駐車場に活用できるし、教室はわずかなりノベーションで会議室等に転用することも可能だろう。廃校になる施設も併せて考えていく必要があるのではないかと。
- 副市長： 廃校等の公的資産を含めた利活用については、今年度資産経営課を新設し、資産経営課の仕事としてファシリティマネジメントを本格的に取り組んでいる。
- 委員長： 既存ストックの活用も公共施設再編で重要な視点である。

② 全体スケジュールの共有

- 委員一同： 異議なし。

(4) 市民意向調査について

- 事務局より資料 4、5 の説明

① 市民アンケート調査結果

② 中高生アンケート調査結果

- 委員： 中高生のアンケート結果を見ると、「音楽や演劇の鑑賞」ニーズが低いとあるが、おそらく中高生は学校の体育館以上の環境での音楽や演劇鑑賞の体験が無いのだろう。子供たちの成長にとって、環境が整ったホール等で発表や鑑賞するのは大事なことである。アンケート結果のみから、ニーズを検討するのは好ましくない。
- 委員長： 学校施設の活用の話があったが、ホールやスポーツ施設を地域や教育施設で共有し、学校をスリム化して、効率化できる方法があるかもしれない。若者が施設を利用する環境を作るのが大事だと思う。
- 委員： 高齢者層の講演会のニーズは高いだろう。ただ、今の銚子では、全国大会等のイベントは誘致できない状況にある。施設へのニーズはある一方で、中高生のアンケート結果から、経験が無いとニーズが引き出せないといえる。関係人口等を考慮して施設再編を検討する必要がある。
- 委員長： 地元で充実した経験ができないと、若者が都心に行って銚子に戻ってこない現状がある。将来的な投資として、若者の居場所を作るのは重要だろう。
- 委員： かつて、体育館や青少年文化会館での交流があったのに、文化会館の休館後は交流の機会が減少している。文化的な程度は都市の魅力度も表しており、若年層の定住に繋がることから文化施設は重要である。
- 委員長： 今年度はシンポジウムやワークショップを企画しており、今後も地域の公共施設に関する要望を把握していく。

その他

- 事務局より、第2回委員会の議事及び開催の目途（9月中旬）を案内した。

以上